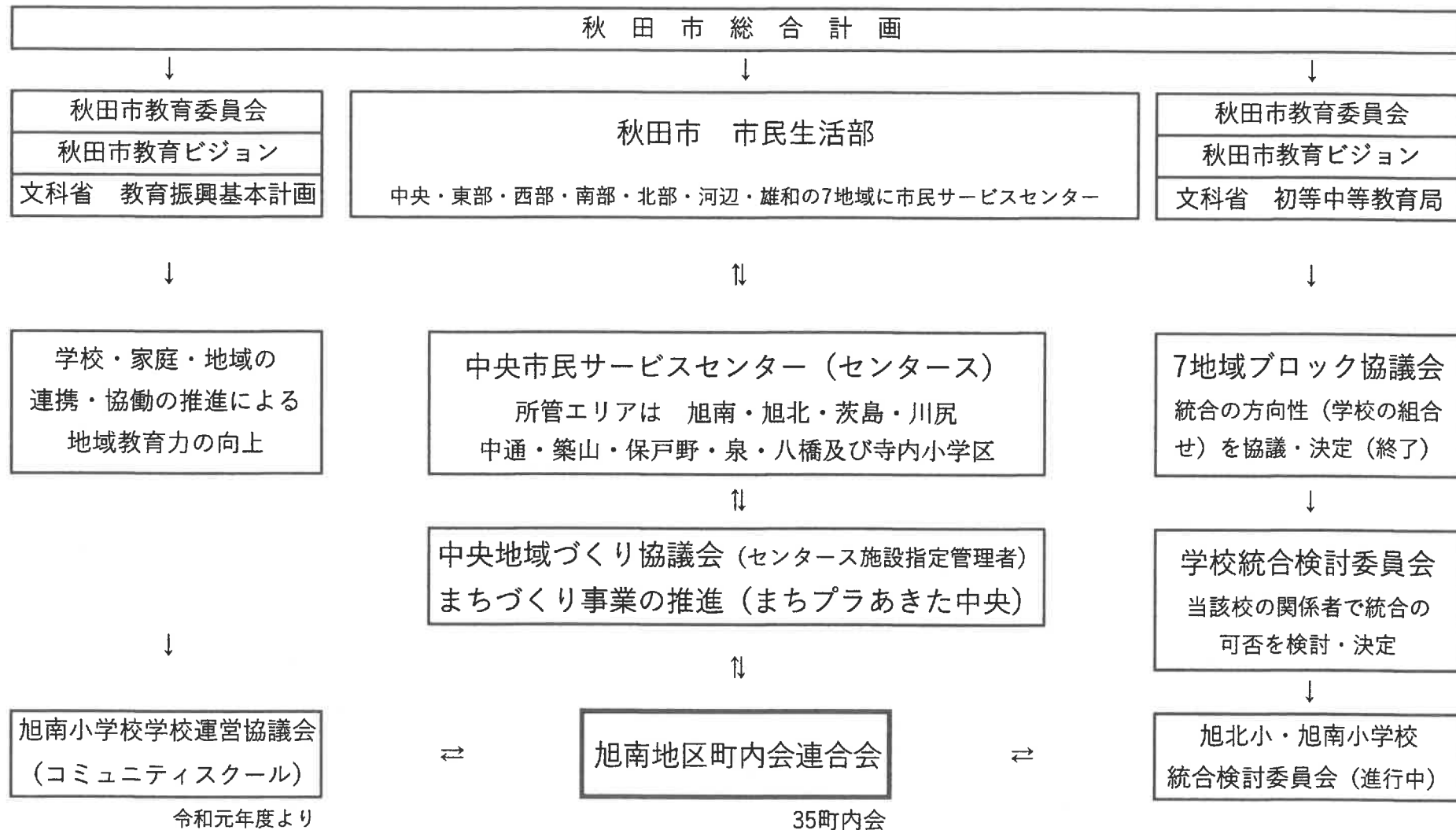




会議名	令和6年度第1回学校運営協議会		
日 時	令和6年7月11日(木) 13:40~15:20	場 所	旭南小学校 生活科室
参加者	町内連合会会長(旭南地区、茨島・御町地区) 2名 民生児童委員協議会主任児童委員 2名 旭南小学校PTA代表 3名 旭南小学校校長、教頭、教務主任、生徒指導主事 4名 計11名		
協 議	【不登校やいじめについて】 ○不登校が少ない学校の共通点は、子ども自身が、自分のよさや活躍を自覚できていることだという話を聞いたことがある。何か不満があったときに、その原因を相手のせいにはばかりするのではなく、互いの問題として共有し、解決しようと考え合うことのできる関係が大切。本校の子どもたちは、そのように行動できる集団に育っているのではないかな。またその一方で、オンラインゲームやライン等で交流する場面が増え、子ども同士が直接コミュニケーションをとることが減っていることも危惧している。 ○本校では保健室登校ではなく、不登校やいじめが少ない状況であるが、全くないわけではなく、これから出ないというわけではない。未然防止や早期発見、早期対応に努めていきたい。現在は子ども同士の人間関係が良好であるということだろう。 ○いじめは、見た目では何もないが、かげである場合もある。相手を思いやる気持ちが必要。 ○～さんに～された、～と言われた、などの訴えがよくある。子どもに対して担任が、なぜそのようなことをするのか自分で相手に聞いてみたのか、と聞くと、たいていの場合相手に聞かずに担任に訴えに来ていた。もし、その場で相手に聞いてみることであれば、その場で解決できることもある。やめてほしいことを相手に伝えてもやめない時には、先生の出番だよと子どもたちに伝えている。子ども同士で解決しようと話し合うことが大切。 ○最近の情報から、子ども一人一人に価値や才能があり、それを先生方が見つけてやり、認めてあげることによって、子どもは満足感を得て、その後の生き方にも影響を与えることがあると聞いた。そのようなことから、幼稚園、小学校の教育がとても重要であると感じている。先生方の、子どもの価値を見つけ、育てていこうとする姿勢が大切。自分は盲学校で勤務した経験があ		

り、今日の4年生の盲導犬と暮らす方のお話はとても素晴らしい取組だったと感じた。目が不自由な方は、自分が転んでも、水に落ちても、自分で立ち上がって歩いていかなければいけない。自分だけが不幸だと思うな、そう思うことが不幸なのだと、当時の生徒たちに話した。目の不自由な方は、記憶力や様々な神経が研ぎ澄まされており、我々にはもっていないものをもっている。人はそれぞれに優れたものをもっているということ。後々まで、人の心に残る言葉を授けることも大事である。4年生にとっては、自分が知らない世界を知ることができて、とてもよかったのではないかな。

【入学後の1年生の様子について】

○日々の子どもの様子を全職員で見守り、様々な出来事に対応している。少しずついろいろなことができるようになり、成長を感じる。2年生の姿を見ると、1年の子どもの成長は大きいと感じている。また、学級生活支援ポーターが担任等とすぐに情報共有をし、指導に生かすということができている。

【問題行動があった場合の対応について】

○言い合いになることもあるが、互いに不満をぶつけるのではなく、「～さんは～できるんだよ、すごいんだよ」と相手のよさに目を向けるなど、認める言葉かけをしながら関わっている。様々なことが起きてもそれを乗り越えて、子どもたちが育っていると感じる。

【ICT機器の活用の進展はあるか。】

○教員の授業の中での使用頻度は高くなっている。

○今年度から、週1回2年生以上の学年で、タブレット端末を持ち帰ることを始めた。夏休みにも持ち帰り、学習することになっている。教室では、大型モニターを活用しながら授業を行うことが多い。タブレット端末操作に慣れてくると、児童間でオンラインゲーム等でのトラブルが起きる場合がある。学校と家庭の連携が必要。

○タブレット端末活用について保護者にアンケートをとったところ、どのように活用したらよいか分からないという意見が多かった。そこで、今年度も夏休み前に、タブレット端末の活用例を紹介したおたよりを配付することになっている。まだまだ試行錯誤の途中である。

○ネットに関するトラブルは高学年に多い。文字でのやりとりなので、言葉のとらえ方で行き違いが起きることがあるが、担任が当該児童に指導し、保護者にも連絡するなどして解決してきている。親が知らなかったという事案もある。

【不審者について】

○今のところ心配な事案はない。

【その他】

○地域の方が、孫の担任だった校長先生にどうしても会いたくて学校に会いに行くと、職員の対応がとてもよく嬉しかったという話をしていた。その話を聞いた自分も心が温くなり、嬉しい気持ちになった。地域の学校として、とても身近に感じられた。

○先生方の人とのかかわりを見て、子どもたちは学ぶ。先生が、実際に子どもを認めたり叱ったりしている姿をみて、子どもたちも人とかかわりを学んでいる。本校の先生方は、子どもに適切に接していて、保護者の方も先生方を信頼してくれている。家庭と先生方が良好な関係を築けていることが、子どもたちの心の安定、健やかな成長につながっている。

○低学年は活発な姿が見られ、高学年は落ち着いた態度で学習していた。4年生の障がい理解教室では、お話を伺って自分自身も感動した。盲導犬と一緒にいても100パーセント安全だとは限らない、『お手伝いしましょうか』の一言ありがたい」といった講師の方のお話が印象に残った。

○いつもは自分の子どもの学年しか参観する機会がなかったが、全校の様子を参観し、子どもたちの成長の過程を見ることができた。ハッピースマイル活動は、子どもも楽しみにしていて、よい活動だと感じている。下学年を思いやる心や、上学年としての責任感が育つ。また、地域ふれあいクラブも特色豊かで、喜んで参加している。妹が2年後に入学するが、親として安心している。

○卒業した兄の時から、先生方の細やかな対応に感謝している。現在通っている子どもも学校が大好きで、担任の先生のことをとても慕っていて親として嬉しく思っている。

会議名	令和6年度第2回学校運営協議会		
日 時	令和7年1月31日（金） 13:40～15:20	場 所	旭南小学校 会議室
参加者	町内連合会会長（旭南地区、茨島・卸町地区） 2名 民生児童委員協議会主任児童委員 2名 旭南小学校校長、教頭、教務主任、生徒指導主事 4名 計8名		
校長挨拶			
学校経営説明：校長	学校教育目標：光と恵みと力の旭南 ～「旭南行動人」の実現を目指して～ について 今年度の取組		
学校評価について ：教頭	教育活動に関するアンケートの結果について		
協 議	○ホームページの通学路地図が古いままになって いるので、差し替えてほしい。授業で活用する外部講師の紹介は、学校運営 協議会が窓口となって紹介し、地域として協力していくこともできる。ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを見て、誰もが分かりやす い授業は、様々な効果を生んでいると感じた。 ○子どもたちからの元気なあいさつがよかった。授業は全員参加が基本であり、仲良く、大きな声で発言する姿が見られてよかった。特別支援学級の子どもたちも学習にしっかりと取り組んでいた。タブレット端末は、すぐに調べられて便利だが、紙媒体での学習も大切。SNSによるいじめ等の事件が他県で起きていたので、心配もある。また、アンケート No.14「お子さんは、地域や社会に関心をもち、どんな大人になりたいかを考えている。」の評価が低い。自分だけが儲ければよいという考え方は、いずれ日本にも入ってくる。そうではないことを子どもたちに教えてやらなければならない。同じ No.17「お子さんには期待する学力が身に付いている。」について、問いに答えるための指標は何か。判断はどこから来ているのか。 子どもの自殺が増加していることを受けて、どんな困難があっても「生きる」ことの大切さや命の大切さについては、今後も教えていってほしいと感じている。		

○タブレット端末のよさの例として、算数の学習で図形を動かして説明したり、作図する時の動画を見たりできるところなどがある。逆に不便なところは、読みながら直感的に線を引いたり、メモをしたりする書き込みがしにくいところである。現在は、教師が全体に提示するときに使うことが多い。デジタル教科書は2教科だけなので、まだ紙の教科書が主流である。 ○No.17 について、保護者は、子どもが持ち帰るテストやプリント、授業参観での様子、塾等で分かる数値的な結果、全国や県の学力状況調査の報告や子どもたちの普段の様子などを判断材料としていていると思われる。 ○市内では感染症が流行する中、学校の子どもたちは元気いっぱい、パワーをもらった。学年が上がるにつれて、成長を感じた。先生方は、子どもたちの興味を引き付けながら、授業を工夫して行っている。健康に留意して、頑張してほしい。 ○今回の訪問でも子どもたちの成長を感じた。学習発表会の時も成長を感じたが、学校に来るたびに子どもたちが成長しているのを感じる。 ○特別支援学級の児童は、通常学級の児童とどのように交流しているのか。 ○どの学年の児童も、交流学級で授業を受ける教科があり、その教科は児童によって違う。3つの特支学級間の交流もあるし、所属する学級や学年との交流や全校で行う行事等での交流もある。また、所属している児童の対応については、特別支援学校の職員に来校していただき、指導してもらうなどして外部との連携も図っている。 ○今日の参観授業の中で、算数の時間に、途中で詰まりながらも自分の考えを説明している児童がいた。最後まで説明することができ、感心した。子どもたちは、活気がある中にも落ち着きがあり、しっかり学ぶことができていたと感じた。 ○旭北小との統合については、敷地や校舎は旭南地区であると考え。校舎が旭北小になれば茨島地区の子どもの通学距離が伸びる。旭南、旭北、茨島3つの地区の活性化を考えると、通学する子どもたちを中心に考えるべきである。 ○今後コミュニティスクール化は進む。外部講師の紹介や地域と合同の運動会等学校運営協議会として積極的にかかわっていききたい。地域情報を発信するアプリ「まちぶらアプリ」ができた。これを学校運営にうまく活用し、学校とつながり、保護者とつながることをめざしていきたい。

地域主体の管理運営

市民活動に開放する貸出施設は、「中央地域づくり協議会」が、指定管理者として地域主体の管理運営を行います。

中央地域づくり協議会は、中央地域における住民自治の担い手となり、住民相互の交流を図りつつ、地域の諸課題の解決に取り組み、住みよい地域づくりを推進すること目的として設立した市民活動団体です。

中央市民サービスセンターって どんな施設？

中央市民サービスセンター「センタース」は、和室・洋室や多目的ホールなどの貸出施設、生涯学習、地域の子育て支援、地域活動支援および災害時の避難場所といった機能を併せ持った、中央地域における住民自治の拠点施設です。



【愛称の意味】

秋田市の中心を意味する「センター」と、私たちを意味する「us(アス)」を組み合わせたもので、市民一人ひとりが気軽に利用でき、明るく温もりのある場所になってほしいという願いが込められています。

【ロゴマークのコンセプト】

シンボルマークは、愛称に込められた願いを受けて「us」の二文字が「センター」に集まっていくデザインとし、親しみやすさを感じられるよう暖色系の配色を施しました。また、その中心に目印のようなモチーフを置くことで、センタースが様々な活動の拠点となる場であることも強調しています。

ロゴタイプは市民同士のつながりをイメージして全文字の横のラインや、最初の3文字の斜めのラインがつながって見えるようにしています。



所在地 ①010-8560 秋田市山王一丁目1番1号
秋田市役所2,3階

◎駐車場の台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関や乗り合わせでお越しくださいようお願いいたします。

施設利用の申し込み

TEL 888-5644 FAX 888-5645

取扱業務の問い合わせ

TEL 888-5640 FAX 888-5641

URL

<https://www.city.akita.lg.jp/index.html>
「広報ID検索」に、ID:1004312を入力してください。



平成28年5月6日撮影



秋田市中心地域の情報がぎゅーっと詰まったホームページ

まちプラあきた中央

地域活動に関心のある学生を募集中！



PR大使による取材活動！



各地区住民からなる部会の様子！

まちプラあきた中央の取組

ホームページ「まちプラあきた中央」では、
PR大使と呼んでいる

秋田市内の学生の力を借り、
秋田市中心地域の魅力を発信しています。

ホームページ「まちプラあきた中央」に、
掲載する記事作成（取材・投稿）を
行ってくれる方を募集しています！！

トップページ

各地区の記事はこちらから



中央地域づくり協議会（センタース）

tel: 888-5644

E-mail: sc7@centers.ec-net.jp

担当 藤田

活動内容

- ・秋田市中心地域の情報を、ホームページ「まちプラあきた中央」に一月ひと記事のペースで掲載していただきます！
- ・記事は、地域の行事やお店の紹介など、ご自身の観点で自由に作成いただけます！
（地区からイベント等の情報提供も随時行います）

活動に対する支援

- ・記事掲載一件ごとに活動費（3,000円）を支給いたします！
- ・当協議会と携しているIT担当者による講習会を行っていますので、これまでホームページに投稿した経験の無い方もご安心ください！

さいごに

地域の方々とのつながりや交流も生まれる
貴重な経験ができます！
関心のある方のご 絡をお待ちしております！

※本取組は、秋田市中心市民サービスセンター
「地域まちづくり推進事業」の活動の一環です！



HP「まちプラあきた中央」
トップページ



PR大使への講習会の様子